

臨床検査専門科目	生体機能検査学					
		1単位	演習	平成30年度	前期	2年次
臨床検査学科	必修					
科目名	生体機能検査学各論Ⅲ（神経・筋） Clinical Physiology (Neurology)					
担当教員	◎堀江修 小林昌弘					
目的	生体機能検査のなかで一般的な神経・筋機能検査である脳波検査，筋電図検査，感覚機能検査，平衡機能検査，その他の神経系機能検査および評価などについて正しく理解する。また，代表的な睡眠障害などについて，その検査方法，評価についても学ぶ。					
目標	<p>生体機能検査学(総論)で習得した基礎知識を元に、神経系生体機能検査の意義，限界等について詳細を説明できる。神経系機能検査ごとに正しい検査手技を理解する。得られた検査データについて，その信頼性を評価し，病態を把握する方法を学ぶ。実例を用い，検査データの読み方，追加実施すべき検査等を学ぶ。</p> <p>生体機能検査に関連する主な病態を理解し、各種生体機能検査がどのように用いられ、評価されているかについて説明できる。</p> <p>Ⅲ：神経機能系検査</p> <p>① 脳神経系の構造と機能について説明できる。 ② 脳波検査の種類と適応について説明できる。 ③ 脳波検査における正常所見および異常所見について説明できる。 ④ 筋電図検査の種類と適応について説明できる。 ⑤ 筋電図検査における正常所見および異常所見について理解できる。 ⑥ 誘発電位検査の種類および各種所見について理解できる。 ⑦ 眼底検査、平衡機能検査について理解できる。 ⑧ 感覚機能検査（味覚・嗅覚・触覚・視覚検査）について解説する。 ⑨ 睡眠時無呼吸症候群について説明できる。</p>					
他科目との関連	生体機能検査学総論，生体機能検査学各論（循環，呼吸，画像）					
評価方法	項目	評価の内容				評価の比率
	筆記試験	定期試験の成績				
評価基準	総合の得点100～90点を秀、89～80点を優、79～70点を良、69～60点を可と評価し、合格とする。59点以下は不可と評価し、不合格とする。					
教科書	最新 臨床検査学講座 生理機能検査学（医歯薬出版）					
参考資料	標準臨床検査学 生理検査学画像検査学（医学書院）および臨床病態学1（ヌーベルヒロカ					
備考 (受講上注意， 事前学習等)	学外講師の都合により，適宜順番・日程を入れ替える。					